香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第23号　2006.3

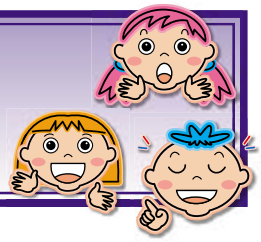
附小フェスタ2006の全校合唱（２月10日）

目　　次

・幼稚園研究発表会　Ｐ２・３
・今，学園では　Ｐ４～６
　小・中・養
・大学連携　Ｐ７
・ＰＴＡ活動　Ｐ８・９
・坂出学園３学期のあゆみ　Ｐ10

研究主題　幼・小連携から見えてきた幼児教育

～ ５歳児の生活を見つめる ～



１月26日，第52回附属幼稚園研究発表会を開催し，県内外より200名の参会者をお迎えして，盛会に終えることができました。大寒が近い季節の中，子どもたちは，早朝からマラソンを行い，元気いっぱいの姿を見せていました。また，クラスのみんなで考えを出し合いながらゲームをしたり，カルタを楽しんだりもしました。

午前中の公開保育に続き，全体会を行い，これまでの６年間坂出附属四校園で共同研究を行ってきた中で見えてきた幼児教育のよりよい在り方について，特に，５歳児の１年間の生活の中での，子どもたち一人一人が友だちとのかかわりを深まりや，クラスみんなで一つの課題を共有しながら充実感を味わう経験の大切さについて，提案しました。

また，午後からの協議会では，公開保育の中での子どもたちの具体的な姿から，幼児期にふさわしいクラス集団づくりとその中での子どもたち一人一人の学びについて，参会の先生方と共に話し合っていきました。

▶幼児教育と小学校教育の連続性から考える

よりよい幼児教育の在り方について考えていくためには，３歳児―４歳児―５歳児の発達の筋道を捉え支えていくと同時に，小学校教育との学びの連続性や系統性からも考えていく必要があると考えます。

そこで，これまで子どもたちのありのままの姿を見取ることから子どもたちの発達を考察してきた私たちは，５歳児の子どもたちがやがて自分たちが身を置く小学校教育に少しふれてみる体験（小学校体験）を実施し，その中での子どもたちの小学校の教育内容や教育方法，教育環境への適応性などを分析しました。そして，小学校入学までに身につけさせておきたい心情・態度・意欲について考え，それらを豊かに培っていく生活の在り方を考察していきました。

▶５歳児の生活の中で

この研究を通して５歳児の子どもたちの生活の中では，遊びの中で子どもたちの知的好奇心を豊かに満たしていくことや，友だちと一緒に考えを出し合いながら共に高まっていく充実感を感じる活動を意図的に取り入れていくことの大切さを感じました。

今年度は，カレーライスパーティーや夕涼み会に向けての活動，ハロウイーンパーティー，ゲーム大会など，クラスみんなで楽しい活動に取り組んできました。

講　演

演　題　共に生きる ―子どもと親と保育者と―

山口大学教育学部教授　　友定　啓子先生

幼児期の子どもたちの豊かな発達を支えていくために，保護者と保育者の連携が大切であること，また，連携していくための具体的な方法について，山口大学教育学部附属幼稚園の事例をもとに御講演いただきました。

おうちのかたと一緒に

２月22日。黄組のお部屋におうちの方を招いて保育参加をしました。

今回の保育参加のメインイベントは，おやつの白玉だんご作りでした。保育参加の１週間前に，「来週は，おうちの人と一緒におだんごを作るよ。」と言うと，「やった！」「早くしたいな。」などと喜ぶ声が聞かれました。

次の日，ある女の子が，自分のロッカーから粘土を取り出し，「先生，練習するわ。」と言って丸める練習をしていました。それを見ていた周りのお友だちも「そやそや，練習せないかん。」と言って何人かの粘土だんごが始まりました。それぞれが，保育参加の日を楽しみにしているのだなと感じさせられました。

そして，保育参加日当日。みんなの登園が終わるとすぐにおやつ作りを始めました。まず初めに「今日は赤組さん，青組さんの分も作るよ。だからみんなで100個は作らないと。」と言うと，一斉に「え～。」と言われました。しかし，一人一人の表情をみるとうれしそうな笑顔を浮かべていました。

いつもはお世話になることが多かった黄組さんにとって，幼稚園全員のおやつを作るということが，大きくなった自分を感じる場となったのではないでしょうか。おやつ作りも，保護者の方の温かいお手伝いがあり，大成功に終わりました。素敵な時間になったと思います。

脳科学研究の知見に基づいた授業づくり

附属坂出小学校では，１月23日（月）には綾歌郡の校長先生方との「綾歌校長会」，１月30日（月）には香川大学の先生方との「大学との共同研究会」，２月８日（水）には都留文科大学の鶴田清司先生との「校内研究会」と，１週間ごとに外部の先生方をお招きしての研究会を開催してきました。そして，これらの会でいただいたご指導をもとに，第90回教育研究発表会（５月25日（木）～５月26日（金））に向け，１年間の研究のまとめに取り組んでいます。

研　究　授　業

１月23日 ― １東 算数科 ― 綾歌校長会

「おおいときも⑩で，かいけつ！　－ぱっと見て，分かる－」

ここでは結果を数え直さなくても，最初から一目見てその数が分かる工夫をしようという意識をもたせることが大切です。そこで，「ぱっと見て，いくつあるか分かる」表現をする必然性を全員にもたせるために，「算数大王からの挑戦状」という形で課題提示しました。子どもの表現した並べ方を視覚映像として用いることで，他者の並べ方との異同関係を明確にすることができました。

明確な課題を設定することで，意欲が喚起される

○意欲が沸くのは，それをやるとなにか報酬や喜びがあるということを知っている場合です。自分で“やる”命令を出すことで，やる気細胞が活動を始めるのです。　（高田明和「子どもの脳力を伸ばす法」：リヨン社）

１月30日 ― ６東 家庭科 ― 大学との共同研究

「まかせて！わたしは食事作りの達人　―お弁当アドバイザー―」

一食分の食事を考える学習において，栄養，量，調理法，味等のバランスを一目で捉えることができるように「お弁当」を取り上げ，その「設計図」を用いた学習を展開していきました。

これは，脳科学の知見「わかったことを図解にすると物事の全体像が見え，考えやすくなる」「味覚や視覚を通して獲得した考え方は記憶されやすい」に基づいたものです。主菜ウインナーと副菜キャベツの量の比を生・炒める・ゆでるという調理法との関係から見出す際，視覚や経験だけでなく，それらを食べ比べるという体験的な活動によってバランスを追究していきました。食べ比べによって，実感をもって自分のバランスに対する考えを吟味したり，修正したりして「お弁当設計図」にまとめることができました。

２月８日 ― ５西 社会科 ― 鶴田先生を迎えて

２月８日　「各地のくらしと気候　―雪の多い地方のくらし―」

子どもにとって，遠い世界である新潟県十日町市の暮らしを具体的に考えるため，自分の町で雪国をシミュレイトする学習に取り組みました。例えば，積雪量を表す２ｍ～４ｍの棒を持って外に出て雪が深さを実感したり，自分の町の模型をわたで作った雪で埋め，生活への影響を考えたりしました。本時では，箱の底に自分の町の地図を敷き，国道が閉鎖され町が孤立すると何が困るのかを具体的に考えていきました。これは，「分かるために自分の操作できる心像に置き換える。」（山鳥重「『分かる』とはどういうことか」）という脳科学の知見に基づくものでした。模型の互換性やシミュレイトする必然性等課題も残りましたが，「除雪した雪はどう始末するのか」「町をつなぐ国道には生活に必要な何が通っているのか」「孤立が長期化すると人や物の行き来は・・・」と雪国の暮らしを具体的に考えていくことができました。

豊かな学びを育むトータルカリキュラムの創造

「生きること」と「学ぶこと」の統合をめざして

「学びの意味化」を促す学習構造

各教科における「生きること」につながる「学び」とは，学習に意味や価値を見出させること（学びの意味化）であると考えます。

これまで，私たち教師は，教科の内容を「わかりやすく」教えることに腐心してきました。そのこと自体は，基礎学力の定着や動機付けのためにも，とても大切であり，数多くの先行研究がその成果を掲げていることからも理解できます。しかし，全国的な議論となっている昨今の学力低下や学習意欲の欠如の問題は，かつてのそれとは異なり，「なぜそれを教えるのか」「その知識や技能は本当に必要なのか」といった学びの根元的な追究を私たち教師に課しているように思えてなりません。一人一人の生徒が，目の前の学びに対し「なるほどそうか！」「もしかすると，こういうことだったのでは…」と心の底から学びの面白さやよろこびを味わい，その意味や価値に気付くことこそ，生徒も私たちも真に求めていることだと思うのです。

このようなことから，今期は，全教科をあげて，学びの意味や価値を実感させる（「学びの意味化」を促す）学習構造の開発に着手しています。

まずは，これまでの授業の学習内容や学習方法をもう一度見つめ直すとともに，その学びを通して身に付けてほしい力をしっかりと分析したいと考えています。

新たな一歩！九州方面修学旅行へ向けて

この春より修学旅行の行き先が屋久島を含む九州方面となります。1993年に世界遺産に登録された屋久島は，ご存じの通り，樹齢7200年といわれる縄文杉をはじめとする屋久杉で有名です。そして，九州最高峰の宮之浦岳（1935m）を代表とする1000メートル級の山々が46座もあり，亜熱帯から亜寒帯まで，つまり，九州から北海道までの気候が一つの島で見られる神秘的な島です。

白谷雲水峡「もののけの森」
写真提供　堀江重郎氏

修学旅行の日程は，これまでの通り４泊５日（４月11日～15日）で，最初の２日間は屋久島の自然の中にどっぷりと身をひたし，３日目は，雲仙普賢岳の火山学習。４日目は長崎平和学習を含む，班別自主研修。そして最終日には太宰府天満宮，スペースワールドを経由して帰校する予定です。

屋久島の魅力について語る堀江重郎氏

現在２年生は，プロジェクトを中心に４月の修学旅行に向けて着々と準備を進めています。

２月３日（金）には，屋久島ネイチャーガイドの堀江重郎氏をお迎えして，事前学習を行いました。美しい写真や豊富な体験談を交えて屋久島の魅力をたっぷりと語ってくれました。どの生徒たちも目を輝かせ，よりいっそう屋久島への想いを馳せることができたようです。

香川大学から・・・ 安東先生特別授業

１月19日，香川大学の安東先生の『美術科特別授業』がありました。～切り紙を楽しもう！～というテーマで，一枚の色紙を折りたたんではさみで切ると，いろいろな模様が・・・・。生徒たちも，先生のアドバイスで，おもしろくて不思議な繰り返し模様の制作に興味をもったようです。

また，自分で作った切り紙をペットボトルに貼り，中にペンライトを入れて，光のイルミネーションも楽しみました。

ステンドグラス？それとも，クリスマスツリー？こんなステキな世界が生まれました。一枚の色紙をはさみで切っていくことで，いろんな楽しみ方があるのですね。

安東先生，ありがとうございました。

いらっしゃい おはなし ポケットさん！

本校では，地域のボランティアサークルのみなさんと活発に交流を行っています。おはなしポケットさんはそのサークルの一つで，８年前より小学部と交流を続けています。おはなしポケットさんは，自作人形などを使った創作劇サークルで，毎年七夕集会やクリスマス集会でその腕前を披露していただいています。今年は，集会行事だけでなく，授業にもボランティアティーチャーとして参加していただくなど，サークルの方々との交流は一層深まってまいりました。

そこで，今回は１月17日のフリー参観日に「初釜」を計画し，私たちにいつも期待と喜びをプレゼントしてくれるおはなしポケットさんに感謝の気持ちを伝えることにしました。小学部高学年の子どもたちがお手前やお運びを担当しましたが，雅楽が流れるムード満点の和室でお茶を立てたり，お運びしたりする子どもたちの表情はとても神妙でした。正座をして待っている子どもたちの姿もりりしく見えます。「和」の心が満ち満ちたひとときでした。お茶会ということで，和服姿で参加していただいたメンバーの方の細やかな心遣いに，同席していた保護者のみなさんからも感謝の気持ちが伝わってきました。

おはなしポケットさん，ありがとうございます。また，学校へ来てくれる日を楽しみに待っています。

教育実習後の学生の指導について

―様々な体験を通して―

教育学部　学校教育講座　助教授　**阪根　健二**

『厳しかったが，楽しかった。』附属学園での教育実習が終わると，多くの学生がこう話してくれます。そして，『是非，教員になりたい！』と。数週間ではありますが，学生にとって大きな体験がそこにあり，附属学園での実習がこれからの教育実践力の向上につながっていると確信しています。

私自身，公立中学校現場から，全国初めての交流人事によって赴任した一員として，この３年間，特に教職の「使命」や「意義」といった，従来の大学教育では指導しにくい分野に力点をおいて，実際の教育現場の実態や課題を赤裸々に提示したり，また直面出来るような様々な体験の場を設定したりしました。そのことが，学生への刺激となり，今後の教職につながると考えています。つまり，教育実習を含め，体験なくしては，本当の教職の意義は掴めないと思うのです。今，香川大学教育学部ではそこが一つの特徴となって，近年，受験する学生も増えつつあります。

さて，せっかく附属学園の先生方が親身になって指導された教育実習の後に，大学として一体何ができるのか，これが今までの大学教育の課題であったと思います。そこでいくつかの工夫改善の取組を紹介いたします。

１）教育実習事後指導に取り入れた教育行政コース

３年次の教育実習終了後に，教育に関する現場の実態を学習するなどの「教育実習事後指導」という授業を実施しています。しかし，それが教育実習と直結するのかと考えると，やや不十分でした。そこで，2003年度から，県教育委員会に訪問し，教育行政の観点から学習指導の充実等を直接，義務教育課長に聞くというコースを新設しました。ここではのべ50名程度の希望学生が，例えば学力向上等の施策について，教育行政のトップにあたる方に学生自身が直接聞くというものですから，学生には相当のインパクトであったようです。自分の教育実習での体験を元に，積極的に参加していました。授業後のアンケートでは，そのほとんどが「教育行政と現場との結びつきが理解できた」「附属での実習の経験が大きいことが分かった」という回答を得ています。なお，参加者のほとんどが教職に就いていることも付け加えたいと思います。

２）校外学習等の実務を体験

子どもとの関わりは，教育実習期間だけでは不十分です。そこで，教育実習後，学生には“学校ボランティア”等を奨励していますが，授業科目である“総合的学習論”を活用し，子どもとふれあう校外学習の在り方について取り組んでみました。そのフィールドが，“レオマおもちゃ王国”であり，“お遍路・お接待実習”なのです。

この取組は，まる一日子どもたちと行動し，子どもの考えや行動を観察する実践を行う授業として実施しています。この取組には，合わせてのべ450名程度の学生が参加しました。ここでは，教育委員会，企業，団体等との連携が不可欠でありますが，この授業の成果が企業を動かし，現在（株）おもちゃ王国と教育プログラム開発の産学共同研究（レオマプロジェクト）を行っています。教育学部としては珍しい民間企業からの外部資金獲得とインターシップの場として活用させていただいているわけです。

附属学園との連携の一つは，教育実習等の成果を大学教育でどう強化し，あるいは補強していくかではないかと思います。そのために，このような様々な体験活動が，教師教育の一助になることを願っております。

特集 附属のこども安全活動

松韻会では坂出市PTA連絡協議会と連係して安全活動を行う事にしました。
安全グッズのデザインを市内の学校で統一する事により，校区に関係なく広範囲に活動ができるようになります。
わが校には校区がありませんので，地域と連係できるこの方式はとてもありがたいシステムです。
松韻会のみなさまも附属を含めた**市内すべての子どもたちに「安全に対する気配り」**をお願いいたします。
また活動の主旨をご理解いただき，安全プレートの**自転車や車などへの常時表示**にご協力ください。
黄色い色がなるべく多く地域に溢れる事で，少しでも犯罪の抑制に役立つ事を祈りたいものです。

2月3日（金）

学園の保護者全員に配付するため，市Pと同じデザインで1,200枚のプレートを追加制作しました(小学校図工室)

プレート材のカット

シルクスクリーンで手刷

安全プレート

乾燥ラックに入りきらず
窓際まで・・

2月23日（木）

市内一斉安全パトロールに参加（ベストは市Pから学園に30着いただきました）

中学校／いざパトロールに出発です

幼稚園／校門でお見送りしました

小学校／地区別児童会と重なり，集団下校時に教師と保護者がいっしょに歩きました

※中央はベスト胸部のマーク

安全に関しての参考URL

パトロールに関しては，県警の「地域安全パトロールの手引き」 http://www.pref.kagawa.jp/police/bouhan/tebiki/index.htm
県警の犯罪情報「安全・安心ヨイチメール」に関しては http://www.pref.kagawa.jp/kmag/annai.shtml

幼稚園より

１月15日に恒例の日曜メンテナンスを行いました。今回は，ブロック塀のペンキ塗りと植栽の剪定を実施しました。寒い日にもかかわらず，20名近くのお父さんたちに参加してもらい，和気あいあいと楽しく作業を行いました。なれない作業にペンキだらけになったり，勢い余って枝を切りすぎたりもしましたが，とてもすっきりとして，園庭が少し広くなった気がしました。日ごろ顔を合わすことの少ないお父さんたちですが，作業を通してとても親睦が深まったと思います。作業後の懇親会でも話が弾み，ついつい遅くまで語り明かすことになりましたが，楽しみながらも子供たちのためになるとても有意義な一日でした。

小学校より

「保護者による読み聞かせの会」の新しいネーミングが決まりました!!『おはなしママーず』による『おはなしランチボックス』です！よろしく！

保護者が毎週水曜日の昼休み，作法室で行っている「読み聞かせの会」は，活動を始めて３年目を迎えました。これを機に会の名称を子ども達から募集したところ，お母さん達の会の名称を「おはなしママーず」，そして読み聞かせの時間を「おはなしランチボックス」と決定しました。１月18日新しい名称のお披露目と共に，採用者２名（共に３年生）に感謝状と記念品を送りました。また参加者全員には「ママーず特製手作りしおり」を手渡しました。現在はスタンプラリーを実施しており，スタンプがたまると「特製しおり」がもらえるとあって，子ども達には大変好評です。これからも絵本を通して豊かな時間を子ども達が楽しんでくれることを願っています。

中学校より

２月６日（火）高松で開催された香川県PTA母親代表研修会に中学校役員や常任委員が10名参加しました。「メディア社会での子育てを考える」をテーマに講演，分科会があり，財団法人インターネット協会の磯野爽氏の講演では，子どもがパソコン，ケータイでチャットやメール，オンラインゲームに投入している現状を紹介。サイバー犯罪は都会だけの話でなく身近にもあることに参加者は危機感をもちました。家庭での対策としては以下のとおりです。

- パソコンの場合・使用のルールを決める（時間を決める等）・パソコンは目の届く場所（居間など）
- ケータイの場合・使用のルールを決める・アクセス制限・メールのチェックをする

今，子ども達は免許証をもたずに高速道路を走っているのと同じ状況。子ども達に不可欠な情報手段を上手に使うために，交通安全教育と同様ルールとマナーを教えなければならない。それは親の役目と認識しました。

養護学校より

親和会

2005「ふれあい祭り」

香川大学教育学部附属養護学校　親和会副会長　竹田　知子

今年度のふれあい祭りは「Ｏ－157」の影響で飲食バザーを断念することになりました。しかし，苦渋の決断をしたことでうれしいこともありました。例年ならば，協賛品などの販売は親和会が担当していますが，今年度は開催時間が短くなるということもあり，学校側の配慮で介護等体験の学生さんに任せることになりました。そのおかげで，親子でゆっくり，のんびりと過ごすことができました。各学部のイベントでは，地域の「しあわせクラブ」「府中ボランティアクラブ」「福祉ママ」「青空会」の方々にも参加していただき，子ども達だけではなく私たち親も地域の方々とふれあい祭りの名のとおり，身近にふれあうことができました。みんなのいい笑顔に出逢えた１日でした。

土曜クラブ No. 2

今年も恒例の光フェスティバル参加しました。制作は11月23日，小学校図工室と家庭科室で子供と保護者を合わせ約100名が作品に取り組みました。前回の経験者も多く，事前に下準備をして来た子どももいて，すばらしいできばえでした。

その後，各学園からの作品を含めてライトボックスに取り付けして12月４日～１月９日まで坂出駅前広場で冬の町を優雅に灯し続けました。

坂出学園１学期のあゆみ

中学校

安全パトロール（2月23日）

坂出市のPTA連絡協議会が推進している「こども安全パトロール」を2月23日㈭の生徒下校時に合わせて保護者と職員で行いました。交差点やJR坂出駅など，様々な場所で生徒の下校の様子を巡回しました。最近こどもの安全確保について様々な論議が繰り広げられていますが，通学範囲が広い本校では登下校の生徒の安全について，通学路の再確認を行い，危険箇所のチェックや各家庭での話し合いを通して，下校時の安全確保に努めております。

送別芸能祭（3月10日）

先日，１年間の学習の集大成となる送別芸能祭が体育館で行われました。今年は１年生が「水澄村」，２年生が「SOMEDAY UNDER THE FREEDOM（いつか自由のもとで）」と題した劇でした。役者や大道具，小道具，衣装，照明，音響まですべて自分たちの手による手作りの演劇に，３年生や保護者の方々からたくさんの拍手をいただきました。３年生の「そのままの君で」と「この地球のどこかで」がお礼の歌として歌われました。歌声の中には，在校生への感謝の気持ちと，本校での学びへの感謝があふれており，本校での最後の思い出づくりになりました。

小学校

６年生を送る会〈２月22日㈬〉

この日は，６年生が１～５年生の教室に分かれて入り，「お別れ給食」がありました。また，全校生での「お別れ会」では，ゲームをしたり手作りプレゼントの交換をしたりしました。６年生は，最後に劇の発表をしてくれました。

森田一氏講演会〈３月７日㈫〉

本学園出身の先輩である元運輸大臣森田一氏が，５・６年生に「国を想う心」という演題で講演をして下さいました。

卒業式

養護学校

中学部への移行・交流学習

２月２日に，中学部に入学する小学部６年生と中学部１年生の交流学習が行われました。

自己紹介ゲームのあと，ペアになって魚釣りゲームをしました。和気合い合いとした雰囲気で楽しめました。６年生から自分の好きな物の写真や絵を使った「自己紹介カード」を受け取り，中学部の教室に掲示しています。入学してくるのが楽しみです。

起震車体験

過去の地震の震度や揺れ方に合わせて，様々な地震の体験をすることができました。怖かったけれど，よい体験ができました。

幼稚園

しゅうりょう，おめでとう青組さん

３月３日，３月のお誕生会と青組さんのお別れ会がありました。

ちょうど，この日は，おひな祭りの日。ステージには，みんながつくったおひな様が並び華やかな雰囲気でのお別れ会となりました。「うれしいひなまつり」の歌を歌ったり，各クラスから，首かざりやアイロンビーズでつくった作品をプレゼントしたり，お母さんが考えたゲームをチームで行ったり…。青組さんと３学期最後の楽しい時が過ごせました。

３月７日，地域の方のご厚意で始まったお茶会も今年で４年目。今年は，赤組を中心にお茶の飲み方や出し方などのお作法を教えていただきました。修了する青組さんにも，お礼の気持ちをこめて赤組さんがお茶を点て飲んでもらうことができました。

編集後記

平成17年度も終わろうとしています。本年度も子どもたちの素晴らしい活躍の姿があり，一人一人がそれぞれに成長できたことを嬉しく思います。卒園・卒業の皆様には，各校園で学んだことを糧に，４月からの新しい環境でのご活躍を心からお祈り申し上げます。

さて，附属坂出学園で取り組んだ文部科学省の研究開発も３年間の研究を終えることになりました。本研究が今後，他校園の取り組みの参考となることを願っています。

平成18年度も附属坂出学園に対しまして，皆様方からのご協力，ご支援をよろしくお願い申し上げます。

発行年月日：2006年３月23日
発行事務局：附属坂出小学校内

編集担当者
塩田　知子　（附属幼稚園）
西浦　雅弘　真鍋　佳樹（附属坂出小学校）
環　　修　十川　裕史（附属坂出中学校）
斎藤　恵子　岩本　　豊（附属養護学校）